

**第68回日本矯正歯科学会大会  
ラウンド テーブル ディスカッション (RTD) 各テーブルのご案内**

**会員各位**

拝啓、時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

こちらに第68回日本矯正歯科学会大会 RTD のご案内をさせていただきますので、皆様奮ってご参加下さい。

**■ 参加費 3,000円（昼食代を含む。）**

参加はすべて事前登録となります。当日登録は行いません。受付票にて、決定テーブルと振込先をご連絡致しますので期日までにお振込下さい。決定テーブルのご案内は今しばらくお待ちくださいますようお願い申し上げます。

**■ 申込方法 インターネットでのオンライン申込(<http://square.umin.ac.jp/jos-am/>)**

FAXでの申込みをご希望の方は、事務局までご連絡のうえ、申込用紙をお取り寄せ下さい。

(学術大会事務局: TEL. 03-3597-1127 FAX. 03-3597-1097)

**■ 申込期限 2009年 6月 18日(木)～2009年 9月 25日(金) ※空席のあるテーブルは10月23日(金)まで延期**

キャンセルの受付はできかねます。ご都合の悪い場合は、代理出席者をご手配下さい。代理出席者を確保できない場合でも参加費の返金はできかねますので予めご了承下さい。また、同一所属機関から同じテーブルに多数のお申し込みがあった場合、他の参加者の方を優先することができますのでご了承ください。

遅刻した場合入場をお断りする場合があります。さらに、途中退席は認められません。

**■ 空席のあるテーブルのみお申込可能でございます。**すでに満席のテーブルのお申込は締め切りました。

1	術前矯正を限りなく短くした外科的矯正治療	
松野 功	赤坂まつの矯正歯科	
術前矯正治療を短縮した Lefort I, Sagittal Segmental Osteotomy 等の外科的矯正治療を東京警察病院形成外科とのチームアプローチで15年間行ってきた。歯列の乱れがほとんどない患者さんや矯正治療をすでに行っている患者さん等が、3～6ヶ月ほどの術前矯正で外科手術を受け、術後矯正で機能的な咬合の確立を行うような治療である。この治療方法での利点、欠点を数多くの臨床例を用いて考察していきたい。		

2	総合病院における矯正歯科の役割	
小椋 幹記	社会医療法人敬和会大分岡病院マキシロフェイシャルユニット	
矯正歯科は、咀嚼、嚥下、呼吸や姿勢などの問題の改善を試みて、口の健康増進に貢献してきた。このことを活かし、総合病院において、従来の歯科矯正治療に限らず、どのような役割を担うことができるのか、また求められているのかについて討論したい。		

3	Biobloc 装置による矯正治療	
北總 征男	北總矯正歯科医院	
正常発育では上下顎は前下方に発育し良好な顔貌を呈するが、不正咬合者の顔貌は上顎が前方への成長よりも下方への発育傾向が大きい。そのため、下顎も後下方への成長が生じる。これら下方へのパターンは、後天的な環境因子を主とする歯間への舌癖や口呼吸などの Oral Posture に密接に関連していると推察される。これについては長期にわたる調査が困難で、関連する臨床報告はあるものの、直接根拠となる研究は見あたらないと思われる。今回は Biobloc 装置による治療と Oral Posture について考えてみたい。		

4	アメリカにおける矯正教育プログラムを体験して	
中西 秀郎	中西矯正歯科	
日本は米国の近代歯科矯正学を範として進歩し、近年臨床面ではほぼ同レベルに至ったと言われています。一方教育システムに関しては、あまり多くの情報がありませんでした。今回、実体験を基に米国の教育プログラムについて、意見交換したいと思います。米国の ①大学院(矯正学)に入学するために ②教育プログラム(文献的、臨床的) ③歯科医師国家試験について ④開業について		

5	矯正歯科だけでどこまで側貌が変えられるか	
今城 広治	いまじょう矯正歯科クリニック	
現在様々な治療テクニックや補助的な材料が紹介され、数多くの治験例が報告されています。それらのなかで矯正治療単独で側貌を大きく変化することに注目したレベルアンカレッジシステムでは、上顎前歯は en Mass retraction を用い側貌の改善を行います。治験例とそのシステムをあげさせて頂き、皆様と「側貌の改善」についてエッジワイスの原点にもどっての議論ができれば幸いと考えております。		

6	長期術後経過症例を顧みて-矯正歯科治療から学んだこと-	
宮崎 忠明	宮崎歯科・矯正歯科医院	
今回は下顎前突症を通して、早期治療長期管理を中心に、治療開始時期について／顎顔面の成長予測について／治療計画・方法について／治療結果と評価について／保定と予後について等、その問題点に関して多くの学ぶものがあった。今後の考え方など、皆さんと共に活発な意見交換を行いたいと報告することにしました。		

<b>7</b>	<b>コンサルテーション・スキルを向上させよう</b>
富永 雪穂	アルファ矯正歯科クリニック
コンサルテーションは単に治療方針を説明するばかりでなく、患者さんの治療への協力性やモチベーションの向上、さらには医療者への信頼感を得るために重要なスキルといえるだろう。患者さんの視点に立った、明晰で簡潔なコンサルテーション・スキルの向上に関して話し合ってみたい。	

<b>8</b>	<b>機能的顎矯正治療を考える</b>
里見 優	さとみ矯正歯科クリニック
機能的顎矯正治療の有効性については、時代によって振り子のように揺れてきた。そろそろきちんとしたアウトカムを作れないだろうか。機能的顎矯正装置の理念にそって装置を作製し、その装置を使う目的を患者さんに説明して使ってもらう。そうして得られたデータを分析する。これが実現できれば治療成績の評価は質が高いものとなるであろう。そのために共通のプロトコルについて意見を交換したいと思う。	

<b>9</b>	<b>小白歯抜歯症例の効率的治療法を考える</b>
池上 富雄	医療法人熊本歯列矯正センター
現在第1小白歯4本を抜歯して矯正治療を行う際には犬歯を単独で遠心移動し終えた後に4前歯の舌側移動を行うか、犬歯を含む6歯をまとめて遠心、舌側移動する方法のどちらかが用いられることが多い。このテーブルでは小白歯抜歯ケースに於いて現在までに用いられてきた主な犬歯遠心移動法及び抜歯スペース閉鎖法を検証し、より効率的で予知性が高い治療法はないかを話し合いたい。	

<b>10</b>	<b>歯列・咬合の状態のスクリーニング検査について</b>
佐々木 貴浩	ホワイト歯科・矯正歯科
現在の学校歯科保健では、健全な咀嚼機能育成が重要視されてきているが、それには良い歯列咬合の育成が欠かせない。適切な育成のためには、いつから要治療または要観察(要指導)なのかが根拠を持って示される必要性を感じるが、現在の学校保健では、まだ十分な検証がされてない点も存在する。検査基準や臨床における考え方について議論したい。	

<b>11</b>	<b>矯正治療におけるキネジオグラフ、筋電計の活用と診断評価</b>
百瀬 保	王子神谷矯正歯科クリニック
近年、育成更生医療の施設基準としてキネジオグラフ、筋電計の設置を義務づけられ、多くの矯正歯科医が装置を購入した。しかし新しく購入された矯正歯科医にとって、これらの臨床への応用や診断に対しては困難な場合があると思われる。私は長年この装置を矯正歯科臨床に応用してきた。そこで今回は臨床例を提示し、この装置を効果的に応用する方法をディスカッションしたい。	

<b>12</b>	<b>アーチフォーム、アーチワイヤー考</b>
古賀 正忠	古賀矯正歯科クリニック
McLaughlin, Bennett 等は治療前下顎歯列を3種類のアーチフォームに分類し、原則的にこのアーチフォームを維持した矯正治療を薦めている。このアーチフォームは人種によってもその分布が異なっている。今回の RTD では、アーチフォームの選定法、個人化の方法(ワイヤーコントロール)、在庫の方法、治療を通じたアーチワイヤーの管理などを話し合ってみたい。	

<b>13</b>	<b>術前矯正治療-術後の審美を考えた治療計画-</b>
山口 芳功	草津総合病院歯科口腔外科
外科的矯正治療での効果的な顎顔面の審美改善には、本邦でよく用いられている硬組織主体の治療計画ではなく、術後得たい軟組織をもとにした治療計画(硬組織移動)が必要である。ここでは審美性を考えた治療ゴールに基づく術前矯正治療の立案とその実際について紹介し、術前矯正治療の重要性について皆様とともに考えたい。	

<b>14</b>	<b>矯正治療後の後戻りに用いる Simple Set-up Retainer (SSR)の紹介</b>
鈴木 善雄	凌雲堂矯正歯科医院
昨年の日本矯正歯科学会で報告した SSR は、矯正治療終了後におこる、前歯部の叢生や捻転、正中部のスペースのような、後戻りに対して用いる可撤式透明樹脂矯正装置である。一回のセットアップで歯の配列を行うことから、製作は容易で、短期間で良好な治療結果を得ることができる装置である。今回、考案した装置の製作法と使用法を紹介させていただきます。	

お問い合わせ先：第68回日本矯正歯科学会大会事務局

〒105-0003 東京都港区西新橋1-7-2 (株)インターグループ内

TEL: 03-3597-1127 FAX: 03-3597-1097 <jos-meeting@intergroup.co.jp>